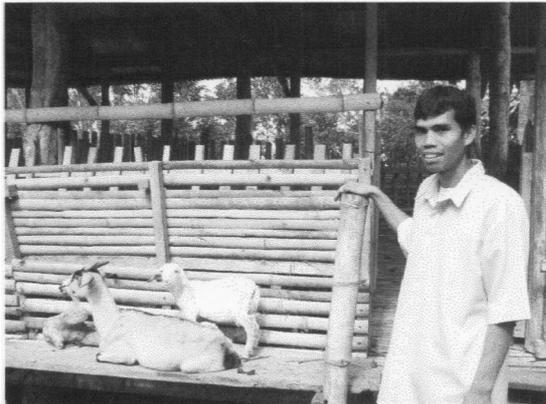


ほんの 100 年前までは狩猟採集民だったチボリ、マノボの人々は、農業の技術を持っていませんでした。山に自生する野菜や果物を集め、野生動物を狩って食べていたのです。いま、ひとつひとつ学びながら森林の再生と自立への道に取り組んでいます。

「私たち教師は、この循環システムと技術を組合員に教えているところです。そのためにも循環する輪の一部である山羊が必要です」

学校の山羊小屋では、20 頭の雌山羊と 2 頭の雄山羊が教師とハイスクール生によって飼育されています。山羊組合に 100 ペソ支払い加入すると、雌子山羊が産まれれば順番に配布されます。雌山羊は年 1 回 5 年間出産し、子山羊は 1 頭 1200 ペソで販売できます。上手に育てれば循環農業に貢献するとともに貴重な現金収入になるのです。雌子山羊を受け取った組合員はまだ 3 軒。これからが期待できます。



子山羊は山羊組合の組合員に配布する大事な家畜。
イキイキと山羊の話をするジェームズ先生



剪定したコーヒーの木の成長具合を確かめる。
右は PFP スタッフのニック

一方、医療に関しては悲しい話を伺いました。7 月に小学校 2 年生の男子生徒 (8 才) が亡くなったそうです。原因は破傷風で、適切な治療をすぐに受けられなかったこと。その生徒は学校の庭で遊んでいて、竹製の花壇のフェンスを踏み抜いてしまいました。教師がすぐ抜き、消毒し、かさぶたもできましたが、1 週間後発熱、その 3 日後に亡くなりました。叔父の家に寄宿して学校に通っていたのですが、叔父も実家の両親も、町の病院へ連れて行く交通費、診察費、薬代 (合計最低でも 500 ペソ) を工面できなかったのです。

住民組合とアドバイザーの PFP は今、①図書室の半分を保健室にする、②資格を持ったヘルスワーカーを育成する、③健康保険組合を活性化するという計画を立てています。②については教師のうち 1 名を公的機関でトレーニングを受けさせる予定。③は加入費 35 ペソ、月々 15 ペソ積立ると家族全員が保障の対象となる組合があるのですが、その積立金を払える住民がほとんどいないそうです。

住民組合の主だったメンバーとのミーティングでは、やはり大きな問題は、医療と、道路が悪いため作物の出荷が大変だということでした。

イベント報告

グローバルフェスタ JAPAN2005 10 月 1 日 2 日: 日比谷公園: ブース出展: ティナラク織製品だけでなく、HANDS の活動内容や給食事業 (4 ページ参照) について、尋ねて下さる方が大勢おり、関心の高さが伺えた熱くて暑い 2 日間でした。 **ハンディクラフト売り上げ: 約 8 万円 給食募金: 1,600 円**

ミンダナオ報告会 10 月 13 日: 横浜市青葉区区民活動支援センター: 松居友氏 (ミンダナオ子ども図書館館長) をお招きして、HANDS の活動地域と隣接するキダパワン市に暮らす人々と医療状況、子どもたちへの読み聞かせ活動についてお話を伺いました。重病の少女の映像と後日談には、改めて医療支援の大切さを学びました。 **ハンディクラフト売り上げ: 1,000 円 給食募金: 3,000 円**

DAWN 劇団「あけぼの」公演 10 月 15 日: かながわ県民センター: フィリピン人の母と日本人の父をもつ子どもたちは、否応のない現実をその体の中に抱えています。素晴らしいミュージカルと交流の時間を持つことができる公演でした。 **ハンディクラフト売り上げ: 6,500 円 給食募金: 2,510 円**